

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
中高一貫教育の推進	①交流授業を改善充実することにより、基礎学力の向上を図る。 ②連携中学校との交流を活性化するとともに、地域への情報発信に努める。	評価指標 ①「学校では、生徒の基礎学力の向上に向けた取組が行われている」と思う生徒の割合が70%以上。 ②「学校からの通知や便り、ホームページなどは本校理解に役立っている」と思う保護者の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①82.2%となっており、目標を達成している。 ②74.5%となっており、目標を達成している。	総合評価 (評定) B	部活動面での中高連携において活性化を進めて欲しい。 生徒数の減少による教員数の減少が今後心配される。交流授業や参観授業などの意義を訴え続けなければならない。
		活動計画 ①-1 交流授業を各教科とも年間12回以上実施する。 ①-2 連携3校での参観(公開)授業を5教科で各教科1回ずつ実施し、授業後の教科会で意見交換をする。 ②-1 ウォームアップガイダンスを5回以上実施する。 ②-2 阿波西通信を発行し、近隣中学に配布する。 ②-3 ホームページを速やかに更新する。 ②-4 阿波西人権新聞を年間3回、保護者に届ける。	活動計画の実施状況 ①-1 交流授業はどの教科も12回以上実施した。 ①-2 5教科での実施はできたが、教科会を開いて意見交換はなかなかできず、感想を提出してもらうにとどまった。 ②-1 新型コロナウイルス感染症防止対策を十分にを行い、各中学校で5回実施することができた。 ②-2 近隣5校に配布した。 ②-3 行事後すぐに更新することができた。 ②-4 人権新聞を年間3回発行することができた。	(所見) ウォームアップガイダンスから始まって中高連携による交流授業や参観授業を通して、生徒たちは基礎学力の向上を目指すということを体感している。 また、ホームページによる保護者への情報提供もスムーズにできているようである。 新型コロナウイルス感染症対策にも生徒・保護者とも理解を示している。	
学習指導の工夫・改善	①生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 ②研究授業・参観授業や授業評価を実施し、授業力の向上に努める。	評価指標 ①「朝の学習や資格取得に向けて熱心に取り組んだ」と思う生徒の割合が70%以上。 ②「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と思う生徒の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①74.7%となっており、目標を達成している。 ②77.6%となっており、目標を達成している。	総合評価 (評定) B	個別に丁寧に教えてくれているという印象がある。 生きる力を身につける上で、マナトレは非常にいいと思う。 多様な生徒が入学してくる中、個々にあった指導が必要になっている。今後とも、特に1年生の授業においてTTの形がとれるよう働きかけていかねばならない。
		活動計画 ①-1 朝のHR活動前の10分間を「学びなおしタイム」とし、「マナトレ」を活用することで義務教育段階の内容について、個々の学力に応じた指導を全教員で行う。 ①-2 漢字検定や英語検定を積極的に受検させる中で、個別指導や補習を行う。 ②研究授業、参観授業及び教科会を積極的に行う。	活動計画の実施状況 ①-1 各学年で実施していき、教員が個別に指導していく中で一定の成果を得ることができた ①-2 コロナ禍の中ではあったが、学習環境を整え、多くの受検生を排出することができた。 ②人権学習のHR活動を公開したり、ジャンプアップ研修での研究授業、中高一貫の参観授業を実施した。	(所見) 朝の学習や、教育支援員なども活用したTTによる授業が生徒の中にわかりやすい授業として理解されている。また、検定受検のための対策も行っており、少しずつではあるが取得級が上がっている。マナトレも効果があると感じられる。	
進路指導の充実	①キャリア教育を推進し、主体的に進路選択ができる能力・態度を養う。 ②読書の奨励を図り、生涯にわたり学び続ける能力の	評価指標 ①「学校では、生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導ができている」と思う生徒の割合が70%以上。 ②「学校では、読書する習慣を身に付けさせる活動が行われている。」と思う生徒の割合が70%以上。	評価指標の達成度 ①77.6%となっており、目標を達成している。 ②33.3%にとどまった。長期休業期間の短縮などもあり、図書室利用の啓発等が十分できなかった。	総合評価 (評定) B	コミュニケーションをとることが苦手な生徒にも適切な指導をして欲しい。 特に読書習慣を身につけることが進路にも大きく関わってくる状況なので、現在行っている啓発を続けていく。コミュニケーション能力や理解力が今後の自分の人生を左右しかねないことをしっかり伝えながら、授業での図書館利
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 進路指導については担任と学年主任(兼 進路指導課長)が	

	育成を図る。	<p>①-1 家庭学習の習慣を確立させ、学習時間全体平均を2時間以上にする。</p> <p>①-2 アカデミックAコースは全員、他クラスは希望者で朝夕に補習を実施し、出席率を90%以上とする。3年生の就職希望者に朝夕の補習を実施し、出席率を90%以上とする。</p> <p>①-3 企業経営者による講演の実施を検討する。(本校生徒の就職先)</p> <p>①-4 個人面談を各学期に1回以上実施する。</p> <p>② 生徒一人あたり年間10冊以上の読書を目標とする。</p>	<p>①-1 1時間20分程度で毎月推移した。</p> <p>①-2 予定どおり実施することができた。出席率も90%を超えている。</p> <p>①-3 今年度はコロナ禍により、外部の方を招いての講演は控えた。</p> <p>①-4 各学期に面接週間をもうけ実施した。</p> <p>②生徒数の減少もあったが、一人あたり年間2.9冊の貸し出しとなった。</p>	<p>密に連絡を取り、適切に指導を行った結果、それぞれが満足できるようなところに進んでいった。補習の出席率も高い。</p> <p>読書の習慣づけについては、臨時休業があり、その後長期休業が短縮されたため、貸し出し数も多くなかった。司書の方の努力もあり、後半は挽回してきたと考えられる。</p>		用も考える。
人権教育の推進	<p>①自尊感情を高める教育を推進するとともに、人権尊重の精神の涵養に努める。</p> <p>②人権意識の高揚を図り、人権問題の解決に主体的に取り組む態度を養う。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「自分や他者を大切に思う心や態度が育っている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>②「様々な人権問題の解決に向けて真剣に考えている。」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 「人権に関する意識調査」の結果を基に、その後の指導へ生かしていく。</p> <p>①-2 人権コンサートの実施を計画する。</p> <p>①-3 各学年で年間1回以上研究授業を実施する。</p> <p>②-1 「人権の日」を年間11回実施する。</p> <p>②-2 人権学習HR活動に、生徒が主体的に参加し、考える場となるよう、ワークショップによる学習を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①75.3%となっており、目標を達成している。</p> <p>②67.8%であった。年度当初の休業時間もあり、十分な啓発ができなかった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 意識調査を行い、関心のある人権問題をHR活動で取り扱った。</p> <p>①-2 年間1回の計画を立て、予定通り実施した。生徒は感銘を受けたようである。</p> <p>①-3 計画通り実施できた。</p> <p>②-1 月1回の実施計画を立てていたが臨時休校があり、9回の実施であった。</p> <p>②-2 2・3年生は計画通り実施、1年生はコロナ禍のため、予定していた内容を変更して実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>1年生では、新型コロナウイルス感染症拡大防止により体験学習は実施できなかったが、人権コンサートや研究授業は計画通り実施できた。それにともなって、生徒自身にも人を大切にする心や態度が育っていったようである。</p>	人権コンサートなど、座学だけではなく、心を動かすような取り組みは継続して欲しい。	体験学習ができなかったため、日常的な生徒観察や相談が非常に大切になり、教員も意識が高まったと思われる。今後も3密の回避が難しい体験学習の実施は困難となることが想定される。指導法の向上が求められる。
生徒指導の徹底	<p>①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、正しいルール・マナーを習得させる。</p> <p>②いじめを早期に発見する態勢を整えるなど、安全教育の徹底を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「頭髪・服装等の身だしなみを整え、挨拶をよくしている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>②-1 「学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>②-2 「交通ルールや交通マナーを守り、交通事故の未然防止に努めている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 学年集会などを通してルール・マナーを習得させ、問題行動の発生を未然防止する。</p> <p>①-2 学年主任会などで教員間の連携を密にし、些細なことも話し合い、情報の共有と組織的な対応を行う。</p> <p>②-1 年間2回学校生活アンケートと個人</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①78.7%となっており、目標を達成している。</p> <p>③-1 「あてはまる」42.5% 「あてはまらない」25.9% 「わからない」31.6%であった。</p> <p>②-2 交通事故の未然防止に努めていると評価した生徒は90.2%であった。目標を達成している。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学年集会や日常の観察等で機会を捉えて指導を行い、未然防止につなげた。</p> <p>①-2 学年主任会を年間7回開催し、で情報を共有し、課題には組織的に対応した。</p> <p>②-1 計画通りアンケートを2回実施し、その後面談</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>服装頭髪については、特に目立つような生徒はおらず、落ち着いた雰囲気の中で学習が行われている。いじめについては、アンケートを実施して、小さなことから対応しているため、未然防止や適切な対応ができている。日常的に行っているため、生徒の中には気づけていないものもいるようである。</p> <p>交通安全については毎朝の立哨指導や生徒会・野球部の啓発</p>	自転車のライト点灯は高校生の方ができている。	交通ルールは大半の生徒が守れており、服装等の乱れもあまり感じられない。生徒はそのような中で、安心して生活を送れていると思われる。生徒と教員の関係性が良好であるという所に由来すると思われる。現状に甘んずることなく絶えず生徒理解に努めながら指導にあたらなければならない。

		面談を実施する。 ②-2 交通事故の未然防止のため、多彩な啓発活動を行う。	を行い、問題の早期対応につなげた。 ②-2 年間計画を立て、交通安全教室や立哨指導を実施し、注意喚起と啓発を行った。	活動など目に見える形の取り組みがあり、生徒も評価している。		
環境・防災教育の推進	①環境美化活動を推進し、環境問題に取り組む態度と実践力の育成を図る。 ②災害時における実践力を養い、地域防災に貢献できる人財の育成を図る。	評価指標 ①「清掃に積極的に取り組んだり、ゴミの分別や節電・節水に努めている」と思う生徒の割合が70%以上。 ②「防災避難訓練や防災教室に参加することで、防災に対する意識が高まった」と思う生徒の割合が70%以上。 活動計画 ①-1 日頃からゴミの分別を推進する。 ①-2 日頃から節電・節水に努める。 ①-3 地域の清掃活動や、植栽活動などに積極的に参加する。 ②-1 消防関係団体と連携した、避難訓練を実施し、生徒に避難方法や経路を十分把握させると共に地域との連携を深める。 ②-2 防災教室を実施する。 ②-3 避難場所の調査と防災関係の資料を配付し、家族と話し合いが持てるよう指導する。 ②-4 防災リーダーの養成を行う。	評価指標の達成度 ①80.5%となっており、目標を達成している。 ②75.3%となっており、目標を達成している。 活動計画の実施状況 ①-1 各教室にわかりやすい表示と分別する容器を設置し、啓発を行った。 ①-2 使用量をグラフ化して校内に掲示し、またCO ₂ CO ₂ （コツコツ）ECO（エコ）チャレンジに参加することを通して節電節水につなげた。 ①-3 1・3年生がクリーン作戦を実施。委員会活動において植栽活動を実施した。 ②-1 12月に実施した。 ②-2 3月に実施した。 ②-3 資料を配付することができた。 ②-4 生徒2名が合格し、防災教室ではリーダーとして活躍した。	総合評価 (評定) A ----- (所見) 防災訓練や防災教室の実施により、より高い意識レベルに達している。HR活動でも避難所運営について意見を交換したりするなど、広がりを見せている。「まなぼうさい」賞を受賞するなど、取り組みに対する外部からの評価も高い。また環境問題についても電気量や水道使用量をグラフ化してわかりやすく掲示している。	市役所に、防災官や気象庁からの人も来ており、小学校で講演などもしている。防災リーダー育成の刺激になるかも。 清掃は素晴らしい。	今までの取り組みを継続していくことが肝心である。今後も防災リーダーの育成に努める。
心身ともに健康な生徒の育成	①食育の充実を図るなど、生徒自らが健康を保持増進できる力を養う。 ②教育相談体制の充実を図り、生徒や保護者の悩みの解消に向けて取り組む。	評価指標 ①「食生活や運動などに気を付け、健康的な生活を心がけている」と思う生徒の割合が70%以上。 ②「教員は悩みや相談などに親身になって対応してくれる」と思う生徒の割合が70%以上。 活動計画 ①-1 食育の啓発を強化し、朝食摂取率を上げる(80%以上)。 ①-2 運動(30分以上)実施率を上げる(50%以上) ②学期に2回以上は相談週間(ハートフル週間)をもうけ、ハートフルルームを活用する。	評価指標の達成度 ①74.7%となっており、目標を達成している。 ②65.5%にとどまり、達成できなかった。 活動計画の実施状況 ①-1 朝食を「食べていることが多い」81%となっており、目標を達成している。 ①-2 アンケートでは「することが多い」が50%であった。達成できなかった。 ②月1回、1回につき1週間の相談週間を実施した。	総合評価 (評定) B ----- (所見) 朝食摂取率は安定している。コロナ禍の自宅学習期間もあり、運動実施率をさらに上げるため、より積極的な啓発が必要である。	健康な生徒の育成には引き続き取り組んで欲しい。	引き続き、朝食の摂取については啓発していく。運動については、保健体育の時間を含めて、様々な教科で必要性を訴える必要がある。徳島でのインターハイ開催が再来年度であることから運動部にも力を入れていきたい。
特別活動の充実	①生徒会活動・部活動やボランティア活動を活性化させ、社会性の育成を図る。 ②学校行事に主体的に取り組む姿勢	評価指標 ①「生徒会活動・部活動やボランティア活動に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合が70%以上。 ②「学校行事に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合が70%以上。 活動計画 ①「一人一役」部活動・ボランティア活	評価指標の達成度 ①74.7%となっており、目標を達成している。 ②80.5%となっており、目標を達成している。 活動計画の実施状況 ①ボランティア活動については、清掃ボランティア	総合評価 (評定) B ----- (所見) ボランティア活動は自分たちのできる範囲での活動を積極的	ボランティア活動による社会性の育成は大切な経験である。コロナ対応もできてくれば様々な行事が行えるようになってくるのではないかと考えている。	新型コロナウイルスの感染状況により、今後もボランティア活動の実施は不明である。生徒の感性を豊かにしていくような活動をどのような形で実施していくかを常に考えながら実施しなければならない。

<p>を養い、集団の一員としての所属感を高める。</p>	<p>動に積極的に参加する。(参加率70%以上)</p> <p>②生徒会活動・委員会活動を活発にし、連携をとりながら学校祭を初めとする各行事が充実できるようにする。</p>	<p>や、地域住民とともに環境ボランティア活動等を行った。参加率は76.7%であった。クリーン作戦では1年生と3年生が参加した。福祉関係のボランティアはコロナ禍により、中止となった。</p> <p>②感染症拡大防止対策を含め、今できることを生徒会・実行委員会が中心となって考え、学校祭を作り上げていった。</p>	<p>に行った。</p> <p>学校祭について生徒は今何ができるかをよく考え、様々な制約のある中ベストを尽くし、成功に導いた。</p>			
------------------------------	--	--	---	--	--	--